

灯台と共にあった 御前崎の歴史

海のまち・御前崎と灯台の歩み〈その2〉



1988年 灯台周辺観光施設整備に着手



御前崎町(当時)は昭和63年(1988)から平成4年(1992)にわたり、灯台から潮騒の像に至るケープパーク内に遊歩道を整備しました。ポケットパーク(地球が丸く見えるん台、夕日と風が見えるん台)、休憩所、案内板、展望台、ベンチ、外灯、公衆トイレ、詩碑、見尾火灯明堂(復元)などが設置され、灯台のライトアップも始まりました。

1999年 灯台守125年の歴史に幕を下ろす

平成11年(1999)3月31日をもって御前崎航路標識事務所が閉所し、125年にわたる灯台守の歴史が終わりました。同年4月1日から静岡航路標識事務所の管理を経て、平成17年(2005)より清水海上保安部(清水港)が遠隔管理しています。



高橋重司所長(中央)と職員を囲み、町4役、町議、御前崎地区区長と記念写真を撮る

2003年 「NEW!!わかふじ国体」の炬火を採火



平成15年(2003)、第58回国民体育大会夏季大会セーリング競技が9月13日から16日まで、御前崎港海域で行われ、炬火リレーに使われる火が御前崎灯台で採られました。

火種は太陽光をレンズで集火し、トーチに点火、授産施設「つばきの家」の通所者によって運ばれました。

2006年 「御前崎灯台を守る会」が発足

平成18年(2006)5月1日に、御前崎市民らを中心とした有志により、「御前崎灯台を守る会」が発足しました。今日まで、毎年5月の灯台まつりや週末の灯台資料館の開設や情報発信など様々な活動を行っています。

2009年 「喜びも悲しみも幾歳月」の歌碑建立



御前崎灯台は灯台守夫婦の半生を描いた映画「喜びも悲しみも幾歳月」の主要舞台となったところです。この映画は、戦後復興の真ただ中にあった日本国民を元気づけてくれました。



この人生の応援歌ともいえる名作の映画ロケが行われた事実を後世に伝承しようと灯台を守る会は、平成21年(2009)5月3日に灯台設置135周年、そして、待望の富士山静岡空港開港を記念して歌碑を建立しました。

2016年 平成の大改修でレンガ積みが見れる

平成28年(2016)、外壁塗装、階段部内壁板の張替え工事が行われ、建設当初のレンガ積みが見れました。

灯塔のレンガは長辺だけの段と小口だけの段を交互に積み重ねる「イギリス積み」で、内壁と外壁の間が空洞で支え壁を施した「二重円筒構造」であることが分かりました。



レンガ積みが見える小窓

二重円筒構造の様子

2018年 灯台建設時の役人の子孫が訪問



御前崎灯台の建設に携わった日本側の役人、今武高光氏の子孫(ひ孫、やしゃご)の家族6人が、平成30年(2018)4月22日、灯台を訪れ、先祖の名前が刻まれている「遷れい塚」を確認しました。このほかにも、別の子孫が2組訪れています。

2019年 灯台前広場「ウミエール」が完成

令和元年(2019)夏、灯台敷地の一部を国から御前崎市が取得し、公園整備をしていた灯台前広場が3月下旬に完成しました。広場は、灯台まつりなどのイベントに使用できるよう芝生スペースが多く確保され、遊歩道、パーゴラ(日陰棚)、トイレが配置されました。広場の愛称は、応募数294点の中から「ウミエール」に決定しました。



2020年 レンガ積み二重構造模型を設置



平成30年(2018)に行われた、灯台用地内埋設物撤去工事の際、建設当時のレンガや塀の塊、伊豆石が出土しました。

灯台を守る会は令和2年(2020)、出土物を利用して御前崎灯台の「二重円筒構造」を解説したレンガ積み模型を、灯台前広場に設置しました。

2021年 御前崎市初の国重要文化財に指定

御前崎灯台と旧官舎、旧回転機械分銅自動巻揚装置が令和3年(2021)8月2日、国の重要文化財に指定されました。御前崎灯台は、イギリス、フランス、オランダ、アメリカなどの列強が要求した8基の灯台に続いて、明治政府が独自に建設を推進した洋式灯台で、我が国最初の二重円筒構造レンガ造り、回転式一等レンズを搭載し、近代海上交通史上、価値が高いことが評価されました。



重要文化財指定書



レンガで積み上げられた旧官舎の屋根裏壁



2021年 東京2020パラリンピック聖火、灯明堂から採火



令和3年(2021)8月24日から9月5日まで開催された東京2020パラリンピックの聖火リレーに使う火種が見尾火灯明堂の灯から採られました。採火は8月17日、会員扮する火の番役の村人によって柳澤重夫市長の持ってきたランタンに移され、日本平の夢テラスで静岡県下35市町の火が集火された後、御前崎から菊川の公道、浜松市内の競技場で聖火リレーが行われました。

2021年 旧レンズ回転機械分銅巻揚装置を展示

第二次世界大戦で米軍の艦載機により機銃攻撃を受けて破損した初代レンズに代わる国産の第三等2面大型転レンズを回転させる昭和25年(1950)製の分銅巻上げ機です。解体されて倉庫に保管されていたものを、御前崎灯台の重要文化財指定にあたり御前崎市が譲り受け、元の姿に復元しました。



組立前の巻揚装置



灯台資料館に展示されている

2021年 灯台を守る会、海上保安庁長官より表彰



御前崎灯台を守る会は、灯台の歴史文化の伝承や海事広報に協力したとして令和3年(2021)11月1日、海上保安庁長官から感謝状を授与されました。

過去にも、平成28年(2016)に清水海上保安部長、令和2年(2020)に第三管区海上保安本部長より、表彰されました。